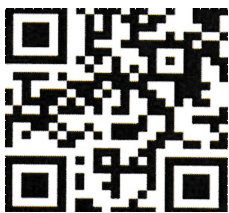


たかさご新聞

発行 高砂大学校同窓会
会長 小野 隆
〒920-0901
金沢市彦三町1-15-5
金沢中央公民館2F
TEL (076) 261-8101
FAX (076) 261-8149
(HP) <http://www.takasagoob.net>



QRコードで
ホームページへ

第44回高砂生きがい
演芸発表会を終えて
演芸交流副会長
松田 寛

コロナ禍で二年間中止となっていた演芸発表会を三年ぶりに開催することができました。

このことをまず出演者の皆様、観客として発表会を盛り上げていただいた同窓会会員の皆様、そして裏方

となって発表会を支えていただいた運営委員及び同窓会役員の皆様に感謝するとともに一緒に喜びたいと思います。

また、演芸交流担当理事としてこの半年この発表会開催に向けてともに懸命に努力していただいた高本昇さんと清水良子さんには特に感謝しております。

三年ぶりに拝見した舞台はどれも大変すばらしく、演目を重ねるにしたがつて感動すら覚えるようになり、発表会の終盤近くでは舞台上の演技に心地よい酔いを感じていました。

これも各グループの日頃の努力・練習、この発表会に向けての熱意など様々なもののたまものであると思います。

発表会を実際に見終わるまで、正直、皆様の舞台がこれほど素晴らしいものだと想像しておりませんでした。

自分たちの仲間の演技がこれほど素晴らしいものであるということには自慢できることだと思います。

コロナ禍で昼食を観客席で食べることができないなどのご不便をおかけしましたが、当初懸念した昼食時間後の観客数が減ることもなく、むしろ発表会終盤程の大盛況でした。

これも舞台での演技の内容が素晴らしかったこととともに観客の皆様のこの発表会を盛り上げようとしてくださったているお気持ちの表れと大変ありがたいことだと思いました。

会終了後に集計した入場者数は観客、出演者、運営委員などすべて含めておよそ二二〇〇名、これはコロナ禍前の三年前の総入場者数一三六〇余名に遜色ない数字であり、発表会は大成功だったと自負しております。

さて、ここからは今年の初めに演芸発表会の担当になり、これまでに経験したこと、反省および来年度に向けての抱負などを述べてまいります。

初は右も左も分からないずぶの素人、周りの先輩たちからは演芸発表会が三大事業の中で最も大変などと脅かされ、その重圧に押しつぶされそうな日々を過ごしておりました。

それでも同窓会の年間スケジュールは無を言わず進んでまいります。まず四月の中旬にクラス会長会議とグループ代表者懇談会があり、ここで発表会への出演者を募る必要があります。USBメモリーの中に残されている過去の出演依頼文書などを読み解き、今年のもに更新して各会議に諮りました。

この間演芸交流担当には看護実習の業務もあり、各グループに受け入れをお願いするやら、日程の調整をするという業務を同時にこなす必要がありました。毎日全力疾走の日々でした。

六月に看護実習が無事終了すると、いよいよ演芸発表会に本腰が入ります。まずは舞台内容のヒアリングです。と言ってもこちらの方はずぶの素人、聞き取るべき勘所が分からない。コロナ禍の二年間の発表会中止の間にグループの代表者が交代している場合、どちらも未経験者となってしまいどうにも要領を得な

七月に入ってプログラムを組むのですが、これも手探り、どう組んでいいのか分からない。本舞台の演目と幕前で演じる演目を交互に挟めば幕が下りている間に舞台の準備ができるということくらいしか知識がありませんでした。ところが今年は三十演目のうち幕前のものが六つしかない。それと一つ、民謡、端唄、詩吟、謡曲などの和ものが続くと観客を飽きさせてしまうということ。そんな条件の中で最後は自分の感性に従って順番を決めました。

結果として、開演直後の演目の進行が滞ることが想定されましたが、ここは「高砂一座」や「日帰り研修旅行」のお知らせをすることなどでなんとか切り抜けました。ここでは司会の方に也大いに助けられました。八月は裏方の仕事の配分です。十二部署に分割して

専門的なものは経験のある方をお願いし、それ以外のものについては同窓会役員をトップに据えて、その方々に部署の業務内容を周知して責任をもって全うしていただくようお願いしました。

各クラス会長には会員数に応じて運営委員を二、三名ずつ出していたでおります。

その方々への説明会は九月に入ってから一回だけで、各部署のトップの方にお願いたしました。



第44回生きがい演芸発表
一番手高砂金沢芸能研究会

舞台裏から見て
実行副委員長
高本 昇

3年ぶりに開催される高砂生きがい演芸発表会は、午前9時開場前から大勢の出演者又は観客の人達が開場を待っていました。

開場後は綺麗に着飾った人、控室に急ぐ人で受付は大変忙しくなりました。

10時開演が宣言されました。一番目の出演の皆さんがスタンバイ、不安緊張が、顔に出ていました。いよいよ幕が上がって照明が舞台を照らし演奏が流れ「百万石ぶし」からスタートした11名がハッピー姿で堂々と歌い切った。次にインタビュ

に入る。法被姿の一員が高砂一座の事について司会と色々話しをして時間調整をして次の舞台に間に合うように調整をしました。このようにして舞台裏では、大勢の人が舞台裏で運営の準備していたり、又は出番を待つ出演者は立ち位置の確認など体を動かして緊張をほぐしていた。

更に大変なのが、招集誘導係で、舞台裏でグループの時間人数等の確認又は進行時間のチェック等そのおかげで演技はスムーズに進行しました。次に大会副会長から11月に実施予定の研修旅行について説明がありました。高砂同窓会新企画で、役員21名が【私達の歌】に挑戦し同窓会校歌熱唱しました。

その後大会会長のインタビュの中で【感謝と感動】を観客の皆さんに伝え大きな拍手で盛り上がりました。



高砂フラダンスクラブ

舞台に立つて
演芸担当理事
清水 良子

高砂大学校同窓会三大行事の一つ「第四十四回高砂生きがい演芸発表会」が十月四日（火）金沢市文化ホールに於いて三年振りに開催されました。

少し前に比べ下火になってきたとは言え、世はコロナ禍、初めて担当を受け持ち、また、演者の一員としてこのまま何事もなく無事に開催できるよう願っておりました。

迎えた開催日の当日、あつて風は強めですが天候は良好。少しの心配と不安を胸に、私は会場の金沢市文化ホールに向かいました。

そして会場に到着した途端、目の前に来場済みの役員、運営委員の皆さんの元気なお姿を拝見できました。このことで私の気持ちも明るく、そして高揚し「大丈夫、楽しもう」と一言、自分を動機付け奮い立たせることができました。

八時・金沢市文化ホールの入り口が開き、役員・運営委員の皆さんが元氣よく入場。

八時十分より、小野同窓会会長の挨拶。実行委員長の松田さんからの注意事項説明から始まり役員・運営

委員は各部署に付き、段取り良く準備が整いました。九時から入場者や演芸出演者の受付が開始、係の方は色々な状況に応じ適切に対応され、発表会へ向けスムーズに進行していきます。

私は式典担当なので、司会者と軽く打ち合わせを済ませ、そして九時三十分・式典が開式され、九時五十分滞りなく第一部の式典は閉式となりました。

そして十時、さあ！いよいよ待ちに待った三十演目「高砂生きがい演芸発表会」の幕開けです！ 実行委員長の松田さんの開演の挨拶が終わり、緞帳が上がりました。

トップバッターは「高砂金沢芸能研究会」の民謡「の「高砂金沢芸能研究会」は昨年十月に発足したばかりの会で、私も会員の一人として皆さんと初出演のトップバッターで唄わせて頂きました。

ほどよい緊張感の中、金沢に歌い継がれている懐かしい「百万石ぶし」「加賀ばやし」など、会場の皆様も手拍子で盛り上げて下さり、本当に楽しく唄う事ができました！

私たちのグループ含め出演頂いた各グループは長く続いたコロナ禍で、その発表の場が失われる等、不安な日々が続いていた事と想います。そして今回、三年振りの晴れ舞台となり、趣向を凝らし、素晴らしい演出で忘れられない「思い出舞台」になった事と思われ

来年度はさらに演目を増やしたく、また皆様のご出演、ご協力をお願い致します。

来年はさらに演目を増やしたく、また皆様のご出演、ご協力をお願い致します。



生きがい演芸発表会
高砂ハーモニカサークル

来年はさらに演目を増やしたく、また皆様のご出演、ご協力をお願い致します。

私も、さらに楽しい「第四十五回 高砂生きがい演芸発表会」が開催できるよう、微力ですが力添えできればと思います。

最後に担当理事、演者の一員として、会長をはじめ各関係者の皆様に心より感謝、御礼申し上げます。

また、たくさんの来場者の皆様、本当にありがとうございます。

「感謝」

高砂大学院OB歴史会
創立50周年記念
祝賀会に招かれて

高砂民謡会
会長 木村 政男

先日、8月25日に開催されました、記念すべきお目出たい高砂大学院OB歴史会の祝賀会に、私達高砂民謡会の講師をして戴いている、民謡プロ歌手の加賀山紋先生に出演のお声を掛けて貰った時に、OB歴史会の役員の方から「折角の機会だから高砂民謡会からも一曲発表すれば…」と嬉しいお誘いが有り、早速加賀山紋先生に相談をして、当日に相応しい。お目出たい民謡を三曲選んで貰って直ぐに教室では、練習曲に加えました。

最初の民謡は、地元の金沢の唄で、毎年正月の出初りに、必ず流れて来る、元氣の出る『加賀鳶木遣りくずし』を。一曲目の民謡は、能登の名曲『珠洲起舟祝い唄』で、日頃お世話になっている加賀山紋先生のお父さんで民謡「加賀山流」、加賀山会の家元、加賀山昭氏が採譜・編曲された民謡



高砂大学院OB歴史会創立50周年祝賀会に招かれて

で縁起の良い曲です。

三曲目は富山県の高岡方面で唄われている民謡で、
「伏木帆柱起し祝唄」を、宴会場に相応しい民謡を三曲メドレーで唄わせて貰いました。

出演日迄、毎週私達仲間12名は、特訓をして、各自がしっかりと歌詞を覚えて、本番を迎え、金沢ニューグランドホテルの祝賀会会場では、加賀山紋先生が出演される前座として、私達は堂々？と発表させて戴き、大きな満足に感動をする事が出来ました。

重ねて、高砂大学院OB歴史会の皆様様心から感謝をしています。

有難う御座いました。

活動状況について

高砂シア健康

麻雀教室

会計監査 桶 茂

私達高砂麻雀教室の足は、平成22年4月にシニアニューライフ研究会が結成され、その中の一部として活動する事になりました。

会の目標として賭けない飲まない、大声を出さないことを主に、シニアの健康、親睦、脳活に寄与する事を目標としています。

今年で10年余りになりました。会員も40人程で行っています。

会員の努力もあって毎年行なわれている「ねりんピック」の麻雀の部で平成13年の第16回高知大会で始めて石川県の代表として出場を決めました、それから続けて4年連続で出場しております。

今人生百年と言われている中で、私達も高齢にも負けない体力と脳の活性化に繋がるように日々努力しております。

その為に今年も粟津温泉やテルメ金沢などへ出掛けのんびりと楽しい雰囲気の中で麻雀をして来ました。

これから麻雀をして見たい方いつでも入会が出来ますので会長横山 了までに連絡お願い致します。

彦三館では、駐車場のスペースがないのです

駐車厳禁です。

私が合唱クラブに入って五年目

高砂合唱クラブ

会長 今村 治代

何もわからずただ皆と一緒に唄いたい！でも、このコロナ禍の中、マスクしてその小さなマスクの中で口を大きく開けて練習しています。

今年の4月という訳か私が代表に選ばれこの秋10月22日に合唱クラブ45周年記念コンサートの大舞台を控え諸先輩の手助けや会員皆の協力のおかげで何とか頑張っております。

会長 モットー
明るく楽しく
笑顔で



「楽しかった
クラス会旅行」
一〇五期一組
会長 西尾 欣一

この新聞を読まれる頃は、もう終ってホッとしている昔聞き覚えのある歌、今始めて知る歌、五線譜のト音記号の隣にシャープやフラットが一つや二つ三つあったり知らない専門記号など本当にこの年で勉強です、でも楽しいです。

先生御二方ともこういう私達にユーモアも混じえて指導して頂き感謝でいっぱいです。

今年で45周年、高砂のサークルでは老舗ではないでしょうか。

私は、母親が創部の頃から入っていたので、いわゆる親娘二代お世話になっていきます。母親を知る会員さんもういらつしやって私には心強い仲間です。

私達の合唱クラブは毎週火曜日と隔週の日曜日が練習日です。コロナの関係上、火曜日は二班に分かれてしています。

そこで私達は三部合唱しているのですが、貴重な男性が素晴らしい声で私達女性陣を引っ張っていつでもらっています。男性の会員が少ないのでそこが一番の悩みです。

男性の声が入ると入らないのでは、全然違います。お腹の底から声をだしましょう。唄い終わったら爽快感があります。私事ですが二時間の練習の後、お腹が空きます。それだけ腹筋運動にもなります。

男性女性問わずいつでも受付しています。そして一緒に唄いましょう。平均年齢80歳、気持ちは50歳。元気な声を出して上を向いて唄いましょう。

この2年間新型コロナウイルス感染症のため全く活動ができず、人々との交流がなくなれば精神面・肉体面でいろいろ影響が出ます。そこで思い切って旅行を実施しました。

10月7日（木）18名は貸し切りバスに乗り、一路富山県岩瀬を目指しました。

生憎この日は一日中雨で足元も良くないながら、ひさし振りの旅行で盛り上がりました。

旧森家住宅は、北前船廻船問屋としての豪華さに驚かされました。

岩瀬クルーズ船で富岩運河を環水公園迄行き、途中中島開門ではパナマ運河方式の水のエレベータを身近で堪能しました。

新湊キートン市場で新鮮な魚に舌鼓を打ってから、勝興寺へ向かいました。

加賀藩十一代藩主治脩が住職をしていた関係で、近

世真宗寺院として類を見ない規模と豪華さを持つ大寺院です。23年間の修理工事が終わり、漸く拝観が叶ったとの思いで門をくぐった時の唐門の豪華さ本堂の壮大さは聞きしに勝るものでした。直後に国宝に指定されただけに、良いタイミングでした。

御車山会館の豪華な展示を見て帰路につきました本当に充実した楽しい一日でした。



健康麻将同好会
テルメ金沢にて

高砂健康麻将の集い
高砂健康麻将同好会
会長 三門 敏雄

私達同好会は、平成29年9月にスタートし今年9月に満5周年を迎えました。「たかさご新聞」第317号にもその経緯を載せてありますのでご覧下さい。

毎週金曜日の午前に初心者、午後に経験者が集まって活動しています。

麻将の良い所は、計算を伴うので、脳の活性化に繋がります。どう組み合わせたら高得点になるか、他のプレイヤーの持ち牌は何かを考えての攻防があり、どんな牌が来るのか、ワクワク感のあるゲームである所です。また、初心者、上級者を

問わず同一テーブルを囲んで出来るので、月に1回の競技大会では、老若男女（？）入り乱れての大接戦、大ファイバーとなる事心至です。

あなたも一度練習風景を覗いてみませんか。

「あのー、一人ですけどー」と来られても大丈夫、スタッフが常時3人以上控えています。健康麻将の名のとおり、昔ながらのイメージとは打って変わり、「健康スポーツ」と捉えています。

写真は、昨年11月開催したテルメ金沢でのスナップです。いつもの練習は、手積みで行ないますが、テルメ金沢では電動麻将で行ないます。いつもとは違って、なごやかな交歓会で、楽しい時が過ごせました。

私達は、「会員がもっと増えないかなー」といつも思っていますので、興味関心の有る方、無い方、是非とも健康麻将に足を運んで見て下さい。

命が伸びる心地の
犀川河川敷ウォーク

高砂歩の“歩のクラブ”
115期1組

荒川 清吉

去る十月二十日（木）、高砂ほのぼのクラブの第三回ウォーキング大会が開催された。九時に旧中央公園に総勢六十三名が集う。当日は雲一つない秋空。「こんな日にこうして歩ける健康にありがたいと思わなんね」と誰かの声。今年入会の新人があいさつし、「ウォーキングはマラソンより消費熱効率が高

く、健康効果がある。人生百年時代に向け、頑張りたい。」とか。テレビからの受け売りのことばに半ばうなずきながら会場の犀川河川敷に向かう。

途中この陽気に誘われた近所の保育園園児の列と出会い、可愛い声に目じりを下げる。コースは犀川に架かる雪見橋・御影橋間の六つの橋の両端を三コース（九km、七km、三km）に分け、自分の体力と当日の調子によって選択す。私は七kmコースに参加する。四高記念公園から河川敷に降り、干し草の匂いの芝生のクツションを楽しみ、さながら小学生の遠足のように喋りに花を咲かしながら上流に向かう。暫くすると川の中ほどの流木に1mはあるうか威厳のある老鷲が獲物でも待つのかボオツと川面を見ている。頭上に桜橋を過ぎると堰がある。物知りの会員から、その堰によって岸の一方の取水口は大野荘用水へ、もう一方は泉野用水へ流れ、田畑を潤すとの説明を受ける。トイレ休憩後土手を上がり、上菊橋を渡ってリターンし、下流へ下る。上菊橋下菊橋から堤に沿って満開のコスモスが風に揺れ、皆小学生のように声を上げる。しつかりとお腹を空かせた昼一時頃、御影橋河川敷で円陣になり、お待ちかねの楽しいお弁当タイムでおかずのやり取りが始まる。

秋日和の楽しいウォーキングでした。